

再評価調査書

事業名	ため池等整備事業（二ツ池）		事業主体	大阪府
所在地	貝塚市清見			
再評価理由	事業採択後5年を経過した時点で継続中			
事業概要	目的	本地区は、清見（せちご）地区の水田（30.7ha）の重要な水源となっているが、堤体や取水施設、余水吐の老朽化が進んでいる。本事業は、これら老朽化した箇所での改修を行い、農業用水の確保と災害の未然防止を図ることを目的とする。		
	内容	堤体工364m、余水吐工1箇所、取水工3箇所、張ブロック工 2,831m ²		
	上位計画	新ため池改修計画		
	関連事業	_____		
事業の進捗状況等	経過	事業採択：平成8年度	事業着手：平成8年度	事業完了予定：平成15年度
	進捗状況	全体事業費 372,000千円	投資事業費 90,000千円（進捗率 24.2%）	
		完了箇所	堤体工245m、取水工2箇所	
		残事業	堤体工119m、余水吐工1箇所、取水工1箇所、張ブロック工 2,831m ²	
整備効果発現状況	_____			
課題	集水面積が小さいため、毎年2月中旬までに工事を完了させる必要がある。			

事業目的に関する諸状況を巡る	①ため池堤体の現況 (1)堤体の浸食率 13.3% > 5% (要改修基準) (2)堤体100mあたり漏水量1.24 l/sec. > 1 l/sec. (要改修基準)								
	②ため池堤体決壊時の影響（想定氾濫区域内） (1)浸水戸数 487戸 (2)浸水農地面積 19.70 ha (3)農業用施設被害：用水路 1,200 m 農道 1,500 m ため池 1箇所 (4)一般道路 600 m (5)被災者 314人 (6)想定被害額 2,674,484千円								
	③地域開発の状況 周辺は主に農地。								
社会情勢の状況変化等	①地域の現状 本地区は、古くからため池を水源として、水田農業を営んできた地域で、水稲の他にたまねぎ、里芋、キャベツ等が作付けされており、中でもたまねぎの一大生産地を形成している。 近年これらのため池は、老朽化が進み、堤体の浸食が著しい状況にあり、一部漏水も起こっており、危険な状態にある。								
	②地域の協力体制 ため池は、農業用水の確保はもとより豪雨時に洪水被害から下流地域を守る防災機能も有している。しかし、築造以来長い年月を経て老朽化が進んでおり農業団体はもとより周辺住民からの改修要望が増加している。								
コスト削減策	工事のための仮設進入路には建設発生土を利用								
その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 改修後のため池の維持管理は、地元水利組合が行う。 本事業の財源負担の内訳 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>国</td> <td>大阪府</td> <td>貝塚市</td> <td>地元農家</td> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>12.5%</td> <td>12.5%</td> </tr> </table>	国	大阪府	貝塚市	地元農家	50%	25%	12.5%	12.5%
国	大阪府	貝塚市	地元農家						
50%	25%	12.5%	12.5%						

費用 便 益 分 析	具体的な便益内容			受 益 者	費 用 便 益 比	備 考	
		老朽化したため池堤体が決壊した場合に予想される被害を改修によって未然に防止する効果 (1)浸水戸数 487 戸 (2)浸水農地面積 19.70 ha (3)農業用施設被害：用水路 1,200 m 農道 1,500 m ため池 1 箇所 (4)一般道路 600 m (5)被災者 314 人			想定氾濫区域内の住民	投資効率(費用便益比) B/C = 7.19 想定被害額 B 対象事業費 C (防災事業に要する費用)	
事 業 効 果 の 定 性 的 評 価 等	大 項 目	小 項 目 (農空間のもつ多面的機能)	効 果 の 指 標 等	具 体 的 な 効 果 等		受 益 者	備 考
	安全・安心	食料生産	ため池の受益面積	農業用水の確保により生産基盤が保全され農産物が安定供給される効果 (二ツ池の受益面積 30.7ha)		農家	
		国土・環境保全		ため池の整備により農業用水が確保され、水田、畑の維持保全につながることで、地下水のかん養や、土砂流出防止といった、国土・環境を保全する効果		府民	
				かんがいのため水田に導水された農業用水が地下に浸透し、さらに河川(近木川等)に還元され流況安定に寄与する効果			
		防災	貯水量	火災発生時の防火用水や、震災時の生活用水として活用 (満水時貯水量 8.1 万 t)		周辺住民	
	環境 (自然環境)	生きもの生息機能		ため池は、淡水魚や野鳥や水生生物等の生息空間(ビオトープ)となっており、ため池が適切に維持管理され、また生き物に配慮した整備を行うことによる、生態系の保全効果		府民	
その他	文化・伝統		歴史的文化遺産であるため池文化の保存		府民		
自然環境等への 影響と対策		事業による自然環境への影響は小さいといえる。					
その他 特記すべき 事項							